目指す学校像	「あした・希望・未来」へ羽ばたく学校 ～「愛」があふれる教育の推進～
--------	------------------------------------

重点目標	1 確かな学力の定着 「学力向上」 2 通いたい学校、通わせたい学校 「安心・安全」 3 私たちの町の栄小 「地域とともにある学校づくり」 4 学び続け、信頼される、教育のプロ集団 「教職員の資質向上」
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価				学 校 運 営 協 議 会 に よ る 評 価				
年 度 目 標				年 度 評 価				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価
1	(現状) ○令和5年度全国学力・学習状況調査 平均正答率の全国との差 国語：-3.2ポイント、算数-2.5ポイント ○学校評価アンケート 「意欲的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答 児童：87.9% 保護者：74.2%。 「進んで家庭学習を行っている」に肯定的な回答 児童：83.0% 保護者：48.1%。 ○タブレットPC活用状況調査の「ほぼ毎日」の市平均との差 -22ポイント ○市学習状況調査「読書が好き」に肯定的な回答 81.3% (課題) ○基礎的・基本的事項の確実な定着。 ○家庭学習を含め、進んで学習に取り組む態度の醸成。 ○タブレットPCも活用した、個別最適な学びの推進。 ○読書に親しむ習慣の確立。	・基礎的・基本的事項の定着 ・学びに向かう力の育成	①基礎的・基本的事項を確実に身に付けさせる指導方法の工夫改善。 ・くり返し学習、ドリル学習の推進。 ・教科担任制の効果的な活用。 ・タブレットPCを用いた個別最適な学びの推進。 ②「できる、わかる」が実感できる授業実践 ・学校課題研究を活用した教員の授業力の向上。 ・スクールダッシュボードも活用しての振り返りの活動の重視。 ③全国及び市の学習状況調査の結果分析と調査結果を活かした授業改善。	①さいたま市学習状況調査の教科平均正答率で同一集団 (例：R5の3年生とR6の4年生) における市平均との差が令和5年度より2ポイント上がったか。(R5:1.4ポイント) ・教科担任制が確実に実施できたか。 ・タブレットPC活用状況調査の「ほぼ毎日」の市平均との差を5ポイント以内になったか。 ②学校評価(児童)「先生たちの授業は分かりやすい」に当てはまると回答した児童が80%に達したか。(R5:75.2%) ・学校評価(児童)「自分は意欲的に学習に取り組んでいる」に肯定的な回答をした児童が95%に達したか。(R5:87.9%) ③4月実施の全国学力・学習状況調査の平均正答率の市平均との差より1月実施のさいたま市学習状況調査の平均正答率の市平均との差を折れ線グラフに表したとき、右上がりのグラフになったか。(R5:-5.1ポイント)	①【暫定値】同一集団での市平均との差は令和5年度より4.6ポイント上がった。分りやすい授業づくりを進めたり、定着の状況に応じた指導や繰り返しの指導を重視したりして、学習内容の定着に努めてきた。 ・教科担任制、算数におけるTTを実施できた。 ・調査がなかったため、「学びの指標」ICTの平均値を指標とすると、結果は3.13と並び、昨年度を0.13ポイント上回っている。 ②回答結果は74.4%と目標値、昨年度を下回ったが、肯定的な回答全体では昨年度を1ポイント上回った。 ・回答結果は88.0%と目標値を下回った。多くの児童が意欲的に学習に取り組んでいる様子は見られるが、各学年に3～4人程度取り組めていないと感じている児童がいると考えられる。 ③【暫定値】市平均との差は-6.3ポイントとなった。算数では補充的な学習がしやすいよう、教科担任ではなく、担任が授業を行うようにし、基礎的・基本的事項の定着に努めた。	A	①②「学びの指標」を踏まえ、教員一人ひとりがよさと課題を把握し、自身の授業改善に生かせるようにする。授業を見合って授業力を伸ばすことに繋げられた学校課題研究の成果を生かし、授業改善を図る。 ・情報教育推進部を中心に、ICTの効果的な活用方法を共有する。 ・学習への意欲を高めることができるよう、SAやTTを活用し、個に応じた指導を充実し、達成感を味わわせることができるようにする。 ③算数を教科担任から学級担任にしたので、補充的な学習を柔軟に行うことができた。教科担任制の成果と課題を検証し、学習内容の定着を図るために、より栄小の児童の実態に合った指導方法を見出す。	・学習の仕方がわかっている子は学力が伸びる傾向にある。自分に合う学習の仕方を身に付けさせることが大切である。 ・小学生においては、生活意欲が学習意欲に直結すると考える。例えば、朝自分で起きられるとか、家庭で役割を持っているといったことが生活意欲の向上につながる。 ・チャレンジスクールでは、自分の意欲に合った学習をしている。
2	(現状) ○学校評価アンケート 「楽しく学校生活を送っている」に肯定的な回答 児童：95.2% 保護者：93.3% 「ルールや約束を守って生活している」に肯定的な回答 児童：93.8% 保護者：92.7% 「先生たちは、悩んだ時や困った時に話を聞いてくれる」に肯定的な回答 児童：94.0% 「学校は、子どものことについて連絡・相談したことに適切に対応している」に肯定的な回答 保護者：82.3% (課題) ○概ね前向きに生活している児童が多い一方で、一定数いる、学校が楽しくないなど否定的にとらえている児童への支援の充実。 ○安全な登下校の徹底。	・支援・相談体制の充実 ・安心・安全な学校運営	①心と生活のアンケート等や面談等の記録を活用した支援の充実と継続。 ②SC、SSW、さわやか相談員との連携、迅速で組織的な支援・相談の推進。 ③SoIaの一むの活用。 ④教育相談日(のびのび相談デー)の活用。	①学校評価(児童・保護者)「楽しく学校生活を送っている」に肯定的な回答が95%に達したか。(R5:児童:95.2% 保護者:93.3%) ②③④学校評価(児童)「先生たちは、悩んだ時や困った時に話を聞いてくれる」(保護者)「学校は、相談したことに適切に対応している」に肯定的な回答が90%に達したか。(R5:児童:94.0% 保護者:82.3%) ②学校評価(教職員)教育相談の状況「必要に応じて関係機関との連携が図れているか」に肯定的な回答をした教職員が引き続き97%に達したか。(R5:97%)	①回答結果は児童が92.8%、保護者が95.7%と保護者は目標値を上回った。友達と仲よく生活している児童が多く、また、教職員は児童に寄り添って対応している。 ②③④回答結果は児童が94.3%、保護者が76.3%となった。教職員は児童と信頼関係を築き、変化に気付くように努めてきたが、信頼関係をより強していく必要がある。児童の状況等は関係職員、管理職ですぐに共有し、組織的に対応した ②回答結果は87%と目標値を下回った。SC、SSW等の活用を進め、より効果的に関係機関と連携できるようにする。	A	①②③④概ね児童は学校生活を送っているが、楽しくないと感じている児童もいるため、児童の思いを生かした活動をさらに充実させるとともに、児童のわずかな変化や困りごとに気付く、対応できるように、さらに児童と教職員の信頼関係を築くようにするとともに、「報告、連絡、相談、見届け」を確実に実行していく。専門的知見をもつ職員、専門機関とより効果的に連携し、一人ひとりのニーズに応じることができるようにする。	・結果を見る限り、学校はよくやっていると感じる。 ・先生方は子どもに寄り添ってくれていると感じている。
3	(現状) ○学校評価アンケート(保護者)全19項目の肯定的な回答の平均：84.1% ○学校運営協議会において学校、家庭、地域のそれぞれで子どもたちのためにできることをしていけるとよいことを共通理解できている。 ○防犯ボランティア、教育ボランティアなど地域の力を生かして、児童の健全育成を図っている。(課題) ○目指す学校像や児童像、学校教育活動等の児童・保護者・地域への積極的な発信と公開。 ○地域活動についての情報提供、行事等参加の啓発を一層深める。	・情報の発信と教育活動の公開 ・保護者、地域と進める学校づくり ・地域の力を生かした教育活動の推進	①各種たよりの発行、学校Webページの充実。授業・行事等や金管バンド発表会等の地域への公開。 ②学校運営協議会を生かした地域と協働する学校運営。学校評価等を踏まえた学校運営等の改善。PTA、学校応援団との連携。 ③SSN[防犯ボランティア、教育ボランティア(さくら草栽培・読み聞かせ・お囃子活動等)]との連携を生かした教育活動の推進。チャレンジスクールの推進。 ④青少年育成会(馬宮・植木地区)、公民館、民生委員児童員・主任児童委員、自治会等関係機関及びホテルと田んぼの会との連携。	①学校評価(保護者)全19項目の肯定的な回答の平均が90%に達したか。(R5:84.1%) ②学校評価(教職員)「保護者や地域住民から寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応しているか」に肯定的な回答をした教職員が100%に達したか。(R5:97%) ③学校により、学校Webページに行事や取組について掲載できたか。学校Webページは週に2回以上の更新ができたか。 ④地域活動に職員が何らかの形でかかわり、実施することができたか。地域の方が来校する機会を令和5年度より増やすことができたか。	①回答結果は84.9%となり、目標値を下回ったものの、昨年度よりは上昇した。学校Webページに日常の学校の様子を掲載した。保護者・地域への学校公開を増やした。さらに情報発信を進め、協力体制をより強めていきたい。 ②回答結果は90%となった。ご意見等は真摯に受け止め、対応を検討し、改善できるものは改善を図ってきた。対応後の検証を丁寧に行い、より良いものとなるように努める。 ③各種情報発信は効果的に進めた。学校Webページは、週2回以上の更新をし、日常の学校の様子を伝えたり、適宜、全体の情報を見直して、情報を更新したりするなど、最新の情報発信ができるようにした。 ④職員が育成会の行事に関わったり、地域の行事の準備に関わったりした。地域の方に向けた学校を公開したり、金管バンドのコンサートを地域の方に案内したりして、来校していただける機会を設定した。	B	①情報発信、学校の公開を継続し、学校への理解を深めていただけるようにしていく。また、懇談会の場を活用し、保護者同士の情報交換もできるようにしていく。 ②今後も、学校にいただいたご意見は真摯に受け止める姿勢を継続し、学校運営の改善に生かしていく。 ③学校Webページの充実をさらに進めていく。 ④ボランティアや関係団体との連携を深め、教育活動をより良いものとなるよう、協力体制を確固たるものにする。職員も地域の行事等に何らかの形で関わられるようにしていく。	・こうした取組が継続していけるとよい。
4	(現状) ○教員一人ひとりが自己の課題に取り組むスタイルに変更して、新たな学校課題研修に取り組んでいる。 ・服務に関する研修を計画的に実施し、信頼される教職員組織づくりに努めている。 ○働き方改革を推進し、効果的で効率的な学校運営に努めている。(課題) ○教員一人ひとりの今後のキャリアを見通した研修の実施と資質向上。 ○働き甲斐を大切にしたい働き方改革の推進。	・指導力向上研修や服務研修の実施 ・働き方改革の推進	①「確かな学力、学びに向かう力を身に付け、自らの未来を切り拓く児童の育成」を目指した学校課題研究の実施。 ②指導訪問等を活用した授業力の向上。 ③キャリアに応じた研修の受講と奨励。 ④学期に1回及び臨時で行う服務研修の実施。	①②教員の「キャリア振り返りシート」の「学習指導」の全教員の合計ポイント(12月)の平均が5月より1.5ポイント上昇したか。(R5:1.4P) ③教員の「キャリア振り返りシート」の「教職に必要な素養」の全教員の合計ポイント(12月)の平均が5月より0.7ポイント上昇したか。(R5:0.3P) ④学期に1回の服務研修を確実に実施したか。	①②結果は5月より0.4ポイント上昇で目標、昨年度を下回った。個々の課題解決を目指した校内研修や相互授業参観、指導訪問を活用して、授業力の向上を図ることができた。また、個々の自己研鑽の内容については、適宜共有し、授業力向上に生かした。 ③結果は5月より0.6ポイント上昇した。目標には達しなかったが、昨年度は上回った。個々の課題は自身のキャリアと密接に結びついていることから、研修の取組が効果的だったと考えている。 ④毎学期、服務に関する研修を、教頭を講師として実施した。また、新聞記事等を活用して、服務に関する指導を管理職から行った。	B	①②③教職員一人ひとりが課題をもって研修に取り組んできたので、その上立った研修を充実していく。その際、PDCAサイクルを意識する。 ②指導訪問を通して、最新の教育動向を踏まえた授業改善を図る。 ④服務については繰り返しの研修を通して、意識を高める。また、ストレスを溜めない職場環境づくりに努める。	・先生方の体調が心配である。忙しいと思うが、無理のないようにしてほしい。
			①教職員自ら提案する働き方改革の取組を共有し、実践化を図る。	①教職員からの提案を共有し、実践できたか。	①Teamsを活用した会議や情報共有など、各職員がICTを活用した効率的な取組を行い、共有できた。		①働き方の改善と活気のある職場づくりのために、前例にとらわれず、自由に議論し、様々なアイデアを生かしていく。 ・学校応援団、PTAとの連携を深め、さらに保護者、地域の方の力を学校運営に生かしていく。	